

聖書日課 『からし種』 2024.3.3-3.10

<p>3月3日 (日)</p> <p>詩編 110編</p>	<p>「主は誓い、思い返されることはない。『わたしの言葉に従って／あなたはとこしえの祭司／メルキゼデク(わたしの正しい王)』。(4節)「イエスは…永遠にメルキゼデクと同じような大祭司となられたのです」(ヘブライ6:30)。新約聖書の語るようにわたしたちがいただくイエス様は信仰を導く祭司であり、また「平和の王」であり、今日も平和を祈っておられる。</p>
<p>4日 (月)</p> <p>詩編 111編</p>	<p>「主は御自分の民に贖いを送り／契約をとこしえのもの定められた。御名は恐れ敬うべき聖なる御名」(9節)。二千年前、わたしたちは自らの命を贖いのそなえ物として献げてくださったイエス・キリストをいただき、イエスが示してくださった愛と平和を心から求めて生きるよう、示されている。御子キリストの示された愛と平和を行うものとして今日も歩み続けたい。</p>
<p>5日 (火)</p> <p>詩編 112編</p>	<p>「まっすぐな人には闇の中にも光が昇る／憐れみに富み、情け深く、正しい光が。憐れみ深く、貸し与える人は良い人。裁きのとき、彼の言葉は支えられる」(4、5節)。今、この世界には至るところで闇が広がるように見える。それでも、憐れみ深く、隣人に心を砕き、惜しみなく分かち合うことを主は喜ばれる。それを行う人に、情け深く、正しい光を与えてくださる。</p>
<p>6日 (水)</p> <p>詩編 113編</p>	<p>「ハレルヤ。主の僕らよ、主を賛美せよ／主の御名を賛美せよ。今よりとこしえに／主の御名がたたえられるように。日の昇るところから日の沈むところまで／主の御名が賛美されるように」(1-3節)。毎主日、わたしたちは賛美をささげる。その賛美は、主への信仰を永く伝えるため、世に広く伝えるために！と、喜びをもってささげられているだろうか。</p>

メール配信登録メール [senfkorn.obc@gmail.com](mailto:senfkorn.obc@gmail.com)

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2024.3.3-3.10

<p>7日 (木)</p> <p>詩編 114編</p>	<p>「岩を水のみなぎるところとし、硬い岩を水のあふれる泉とする方の御前に」(8節)。日本に生きるわたしたちには、蛇口をひねればほとぼしる水は当たり前のもだった。しかし、その当たり前を失った人が、今いる。世界中には水を得ることの難しい人々が常に多く暮らす。荒れ野で水を求めた民にとって、岩から湧き出た水はどれほどの恵みだっただろうか。</p>
<p>8日 (金)</p> <p>詩編 115編</p>	<p>「天地の造り主、主が／あなたたちを祝福してくださるよう に。天は主のもの、地は人への賜物」(15・16節)。神の創造において、わたしたちは万物を支配する者と示されている。支配するとはどういうことか。地が主から託された「賜物」であるなら、わたしたちはこの地を感謝して受け、大切に守っていかなければならない。この地に生きるすべての生命と共に。</p>
<p>9日 (土)</p> <p>詩編 116編</p>	<p>「わたしは信じる／『激しい苦しみに襲われている』と言うときも／不安がつのも、人は必ず欺く、と思うときも。主はわたしに報いてくださった。わたしはどのように答えようか」(10-12節)。世界が暗闇に支配されつつあるように感じられる状況がある。日本でも格差は広がり続けている。しかし、わたしたちも詩人のように「わたしは主を信じる」と伝え続けよう。</p>
<p>10日 (日)</p> <p>詩編 117編</p>	<p>「すべての国よ、主を賛美せよ。すべての民よ、主をほめたたえよ」(1節)。全詩編で最も短いこの詩編は「主をほめたたえよ」と全世界の民に呼びかける。使徒パウロはこの詩編を引用して、ローマの人びとに福音宣教の使命を熱く語りかけた(ローマ 15:11)。今日も主なる神は私たちの小ささを越えて世界に向かって語りかけ、すべての人を礼拝に招いている。</p>